

製薬力向上のための官民協議会 WG「議論の整理に関する意見書」

2025.10.28

牧 兼充

イノベーション、スタートアップエコシステム、スター・サイエンティスト、ディープテック、EBPMなどの専門家として、「創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議」構成員、「創薬力向上のための官民協議会」構成員、国立研究開発法人日本医療研究開発機構監事などに関わってきた経験に基づいて、今回の議論の整理の方向性について、意見を示すこととします。

[ドラッグラグ・ドラッグロス]

1. ドラッグラグ・ドラッグロスは、我が国が直面する速やかに解決すべき、健康医療安全保障上の最優先課題の一つであり、本年3月に公表された厚生労働科学特別研究事業「ドラッグ・ロスの実態調査と解決手段の構築」において、開発の必要性が「特に高い」「高い」ものが55品目存在すると報告されている。米国トランプ政権による「最恵国待遇薬価」が導入されれば、ドラッグラグ・ロスは増加するリスクがある。これは、「創薬力構想会議」の中間取りまとめ以降に直面した新たな課題によって、政府がさまざまな政策を導入したにもかかわらず、製薬メーカーが日本市場への製品導入による米国内の価格の低下リスクを回避しようとするためである。
2. ドラッグラグ・ドラッグロスが発生する要因は複合的である。我が国の健康医療安全保障構築の観点から、政府内におけるドラッグラグ・ドラッグロスを解決するための司令塔機能が適切に発揮される必要があり、関係省庁の垣根を超えた政府レベルの関与がなければ解決されない課題である。
3. 具体的な薬価制度の改革については、「特許期間中の薬価の維持」、「革新的な医薬品における原価計算方式の見直し」、「長期収載品の段階的な薬価引下げルール」など、今回の議論の整理において、必要な論点は整理されている。これらの論点を「グローバルなマーケットメカニズム」を前提とした健康医療安全保障上の短期的に解決すべき重大な課題である、と捉える必要がある。「必要な医薬品へのアクセスなき国民皆保険制度の維持」は本末転倒である。

[創薬力向上の本来的な意義]

4. ドラッグラグ・ドラッグロスの課題解決のみを創薬力向上の最終目的とすべきではない。日本における創薬力向上は、我が国の基幹産業と位置付けた製薬産業を世界と伍するレベルに成長させるためのものでもあり、日本の成長戦略に資するものとする必要がある。成長戦略なき、社会保障費の膨張は避けなくてはならない。
5. 本ワーキンググループでは今後、「創薬エコシステム」構築へ向けた成長戦略を議論する必要がある。そのためには、ワーキンググループのメンバーを拡充する必要がある。官民協議会においては、特に官と民の役割が重要である。官側については内閣官房に直結するような組織体制作りなど政府全体でコミットするような司令塔機能の強化が必要となる。民側については、業界団体の代表者に加えて、創薬エコシステムにより関心の深い個別企業の代表者に直接参加していただく必要がある。議論の活性化を促す意味でも、構成員は組織代表としてではなく専門家個人として参画いただくことが重要である。
6. 「創薬エコシステム」の構築にあたっては、市場の失敗リスクを緩和させる点について、政府の機動的な財政出動が必要である。しかしながら、産業全体に満遍なくサポートする必要はなく、「創薬エコシステム」の発展により貢献するプレイヤーや活動を選択し、重点的にサポートしていくことが大切である。そのための重要なプレイヤーを可視化し、本ワーキンググループへの参画を促すことが必要となる。